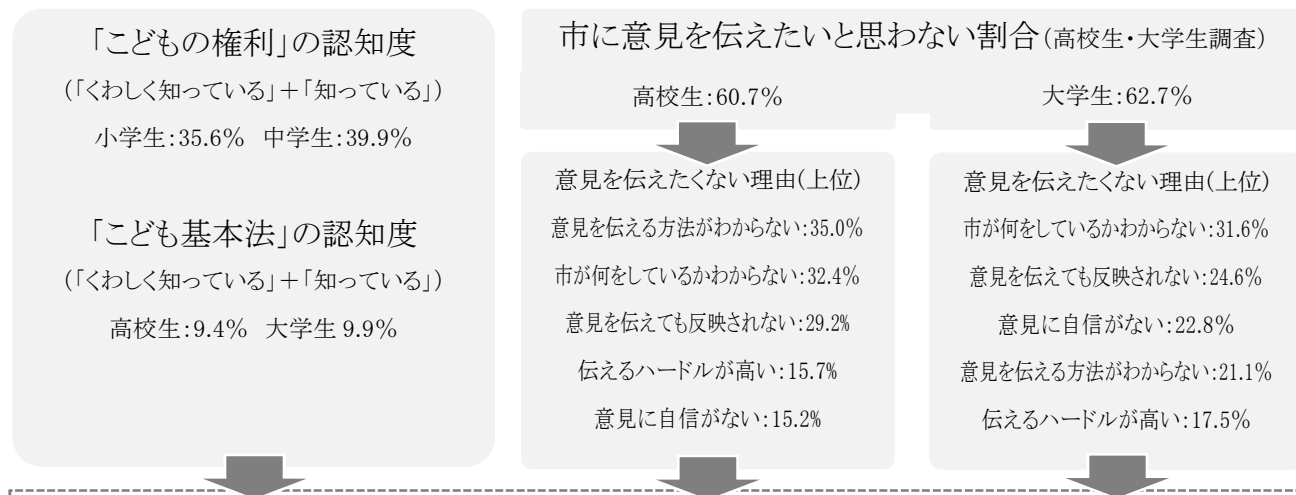


アンケート調査からみる廿日市市のこども施策に関する課題

1. こどもの権利や意見の表明について

【総合計画アンケートより】



【課題】

- こどもの権利やこども基本法の認知度は低く、「こどもは意見を言う権利がある」「こどもは権利の主体である」ことをより一層周知し、こども自身が意見を表明できる立場であることを自覚してもらう必要がある。
- その上で、安心して意見を言える機会をつくることが重要。廿日市市では、こども議会や市長と小学生のディスカッションなど様々な取組が行われているが、高校生以上の若者世代についても、意見を伝えることのできる機会づくりや、若者に向けた情報発信を強化することが求められる。

自己効力感※が高い割合(「自分のことを好ましく感じる」に「ある程度あてはまる」+「非常にあてはまる」)

高校生:49.2% 大学生:31.9% 20～30代:48.1% 40～50代:34.7%

高校生～30代における、自己効力感が低い層では、
高い層と比較して「こどもや若者は大人の思いや考えに従う立場」と感じている割合が高い
(「こどもや若者は大人の思いや考えに従う立場」と感じている割合)

自己効力感が高い層:23.6%に対して、自己効力感が低い層:38.5%

自己効力感と市に意見を伝えたいと思った経験の関係(高校生・大学生調査)

自己効力感が高い層において、市に意見を伝えたいと思ったことのある割合:34.6%

自己効力感が低い層において、市に意見を伝えたいと思ったことのある割合:28.2%

【課題】

- 自分の思いや考えが尊重される経験をしていくことで、自己効力感を向上させ、意見を表明する意欲につながる可能性がある。こどもの頃から、自分の思いが尊重・考慮されていると実感できる機会づくりに取り組むことが求められる。

※ 自己効力感…デジタル庁が示す地域幸福度(Well-Being)指標を構成する因子の1つ

2. 就職や進学について

【総合計画アンケートより】

【統計データ】

年齢別の社会動態をみると、

10代後半～20代前半:進学や就職を機とする転出超過

20代後半～30代後半:子育て世帯を中心とする転入超過が特徴的。

就職や進学の際の選択肢に「廿日市市」が含まれない割合

高校生:75.3% 大学生:69.2%

うち、廿日市市に希望の就職先があるか「わからない」割合

高校生:54.7% 大学生:50.8%

【課題】

○進学や就職の際には、大学・専門学校等のある場所や雇用の多い都市部への転出が多いことがうかがえる。転出した後も戻ってきたいと思えるまちづくりに向けては、幼少期～高校生頃の段階において、故郷に対するポジティブな体験や印象を持ってもらうことが重要。

○市内に希望の就職先があるかどうか分からないが、市外への転出を検討している層に対して、廿日市市内で希望のキャリアを実現できる可能性を示すことで、転出抑制につながられる可能性がある。

3. 若者の社会参画について

【総合計画アンケートより】

今の暮らしに満足している割合

(「満足している」+「どちらかといえば満足している」)

小学生:90.1% 中学生:84.2%

高校生:83.9% 大学生:78.0%

「私の暮らしている地域には、若者が活躍しやすい雰囲気がある」と思う割合

(「ある程度あてはまる」+「非常にあてはまる」)

高校生:37.6% 大学生:24.2%

20～30代:14.4%

関心や意見をもつことが多い事柄(高校生・大学生調査)

高校生の上位項目

友人との関係:45.2%

音楽や映像:43.6%

自分の将来:36.3%

サブカルチャー:32.9%

お小遣い:25.5%

⋮

市や現在住んでいる地域のまちづくり:3.5%

大学生の上位項目

生活費:47.3%

自分の将来:45.1%

音楽や映像:42.9%

友人との関係:40.7%

学費:40.7%

⋮

市や現在住んでいる地域のまちづくり:3.3%

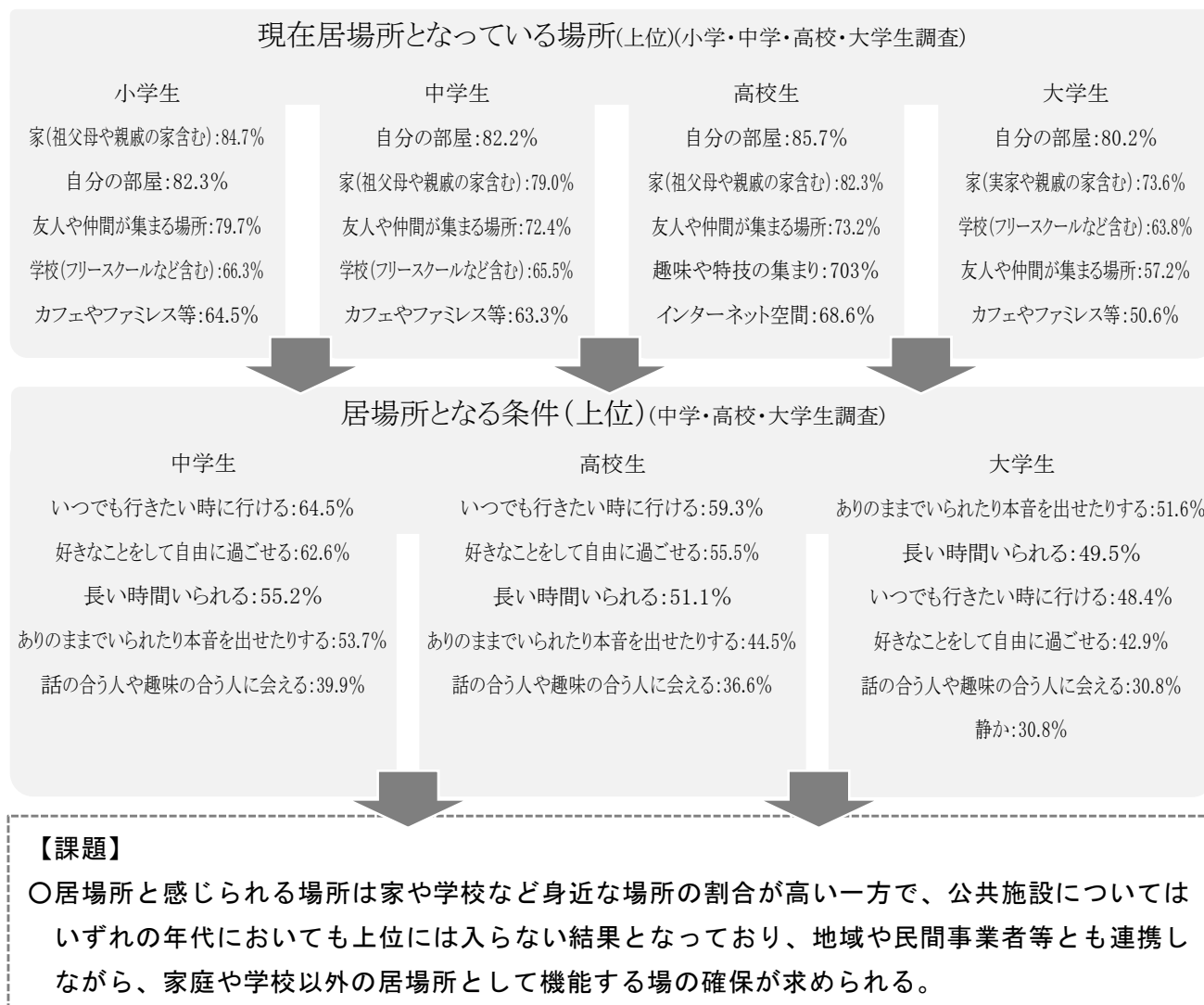
【課題】

○地域での若者の活躍について、高校生から20～30代にかけて年代が上がるほど、若者が活躍できる雰囲気を実感しにくい状況になっていることがうかがえる。地域との接点が少ないことも要因として考えられる。

○意見や関心を持つことの多い事柄は本人の身の回りのことの割合が高い一方で、市のまちづくりに関心のある割合は低い。市のまちづくりが自分の生活にどう関わっているかを理解し、興味を持ってもらえる仕掛けをつくることが重要。

4. 遊びや居場所について

【総合計画アンケートより】



【こども議会（2023）での意見と回答（抜粋）】

- ・吉和地域において自由に体を動かして遊べる場所が少ない。
→学校等の自由開放などは安全性やトラブル防止の観点から難しいため、利用申請に基づき利用できるものとしている。以前地域の方の利用が多かった「吉和田尻公園」は、現在は利用が少なくなっているため、活用いただきたい。
- ・中学生の地域行事への参加率が低い。このため、市内の中学生を対象とした地域行事の企画運営や地域行事の宣伝などをする部活を立ち上げたいと思っているが、市に場所の確保等の支援をしていただきたい。
→廿日市市は各地域で特色が異なり、活動エリアが広範囲となるため、調整が難しくなる恐れがある。まずは学校が存在する地域を拠点として活動してはどうか。その場合は市も他団体等との調整を行うほか、部活動の地域移行の一環としても検討したい。
- ・公園の数は多いが、広さや設備の都合で遊びが制限されている。設備やルールの見直しについて検討されているか。
→近隣住宅への理解を得ながら、各公園の状況に応じたルールの見直しが重要。市も地元と一緒に考えていきたい。

5. こどもの貧困対策や支援等について

【こども議会（2023）での意見と回答（抜粋）】

- ・児童養護施設に入所している立場から、卒園後の生活支援や自己実現についての支援を聞きたい。
→卒園後はほとんどの人が一人暮らしを行っているが、その際の支援として、社協の支援制度や奨学金の制度の紹介、県では個別の相談対応や学習会を行っている。施設でも職員がアフターケアを行っていたり、相談できる場所もあり、不安があるときは、ぜひ市などへ相談してほしい。

【廿日市市子供の生活に関する実態調査より】

家庭の経済状況と校外活動への参加状況

- ・小学5年生では、等価世帯収入（※）の水準が低い世帯ほどこどもがクラブ活動に参加している割合が低い。
- ・その理由について、等価世帯収入の水準が低い世帯ほど「費用がかかるから」「家の事情（家族の世話、家事など）があるから」を選択した割合が高い。

家庭の経済状況とこどもの生活習慣

- ・等価世帯収入の水準が低い世帯では、そうでない世帯と比較して、こどもが朝食を食べる割合が低い。
- ・また、中学2年生の調査では等価世帯収入の水準が低いほどこどもの就寝時刻が一定である割合が低い。

【課題】

○家庭の経済状況によって、こどもの体験機会や生活習慣に差が生じていることがうかがえる。
経済的支援だけでなく、多様な体験の機会の確保や生活支援など様々な支援が求められる。

家庭の経済状況とこどもの成績の関連

小学5年生の
「自分の成績は下の方だと思う」割合
全体:9.9%

【等価世帯収入】

中央値の2分の1未満:14.8%
中央値の2分の1以上中央値未満:11.4%
中央値以上:7.4%

中学2年生の
「自分の成績は下の方だと思う」割合
全体:22.3%

【等価世帯収入】

中央値の2分の1未満:56.5%
中央値の2分の1以上中央値未満:17.0%
中央値以上:21.1%

学習習慣や授業の理解度

- ・等価世帯収入の水準が低くなるほど、授業以外での勉強時間が短く、学校の授業が「わからない」の割合が高い

家庭の経済状況とこどもの進路

- ・保護者調査では、等価世帯収入の水準が低い世帯ほど、経済的理由から中学・高校卒を考えている割合が高い
- ・こども本人への調査では、中学2年生の「中央値の2分の1未満」において半数近くが「まだわからない」と回答

家庭の経済状況と保護者の最終学歴

- ・等価世帯収入の水準が低い世帯ほど、母親が中学・高校卒である割合が高い
- ・等価世帯収入の水準が低い世帯ほど、父親が大学卒以上である割合が低い

【課題】

○家庭の経済状況によって、こどもの学習習慣や授業の理解度に差がある。中央値の2分の1未満の世帯収入のこどもは進路について具体的なイメージを持ちにくいと考えられ、貧困の連鎖を断ち切るための学習支援が求められる。

※ 等価世帯収入…世帯の年間収入を世帯の人数の平方根で割ったもの